

演題: 象牙質接着におけるスマヤー層処理を再考する

演者: 中島 正俊 先生

日本銀行本店文書局医務室歯科医師

徳島大学大学院客員教授



被着象牙質表面を覆っているスマヤー層は、直下象牙質と同じく無機成分と有機成分で構成された切削屑の非構造凝集体であり、象牙質への接着を考える上で、このスマヤー層をどう扱うかは避けては通れない問題である。古くからスマヤー層の除去においては、無機成分をターゲットとしてリン酸などの酸性溶液やEDTAなどのキレート剤で処理されてきたが、直下象牙質も脱灰され、露出コラーゲン層という新たな問題が生じる。そこで、NaOClなどの有機質溶解剤を用いて露出コラーゲン層を除去するという方法も提唱されている。一方近年、臨床的信頼性を獲得しているセルフエッチングシステムでは、別途にスマヤー層処理を行わないため、その接着界面はスマヤー層の一部を取り込んで形成される。しかしながら、この取り込まれたスマヤー層(hybridized smear layer)は、接着界面において欠陥となり、長期接着安定性の劣化の原因となることが指摘されている。本講義では、hybridized smear layerの形成を抑止するために、スマヤー層の有機成分をターゲットとした新たなスマヤー層処理法(smear layer deproteinizing)について解説する

日時: 令和4年 10月12日(水) 17:45-18:45

場所: 歯学部3階 講堂

事前申込: 不要

演者略歴:

昭和62年3月31日 東京医科歯科大学歯学部歯学科 卒業
平成3年3月31日 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了
平成3年4月1日 東京医科歯科大学歯学部附属病院 医員
平成7年5月1日 東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第一講座 助手
平成12年4月1日 東京医科歯科大学大学院う蝕制御学分野 助手
平成13年4月1日 東京医科歯科大学歯学部附属病院 講師
令和3年4月1日 日本銀行本店文書局医務室歯科 嘱託歯科医師

連絡先: 再生歯科治療学分野教授 保坂 啓一
hosaka@tokushima-u.ac.jp

* 本講演は大学院口腔科学教育部の大学院特別講義を兼ねております。